

思いやりの心を育む総合単元的な道德学習の在り方

—小学校第5学年総合主題名「あたたかい心で」における
道德の時間と体験活動との関連を図った道德学習を通して—

金砂郷町立金砂小学校 教諭 石川 八千代

1 主題設定の理由

道德教育は、豊かな心をもち、人間としての生き方を自覚し、道德的実践力の育成を図ることをねらいとしている。特にこれからの教育においては、一人一人のよさや可能性を生かし伸ばすことを基本として、子どもたちが自己実現を図ることをめざした教育の在り方が求められる。そこで、道德教育の「かなめの時間」としての道德の時間を有効に生かし、子どもが自ら考えることを大切にした道德教育の実践が、今まで以上に大切になってくると考える。

しかし、子どもたちの実態を見ると、道德の時間を心待ちにしている子がいる一方で、学年が上がるにつれて道德の時間に消極的な子もみられる。そのため週1時間の道德の時間を工夫すると同時に、道德の時間と各教科などでの学習活動との関連を今まで以上に図っていくことが、子どもが自ら考える道德学習を構想していく上で必要になってくると考える。

そこで本研究では、道德の時間と他の教育活動との関連を図った「総合単元的な道德学習」の実践を通して、子どもが自ら考える道德学習の在り方を探っていきたいと考えた。「総合単元的な道德学習」を展開する中で教師は、子どものよさを長期的、多面的、継続的に見ることができ、的確な励ましや賞賛などの支援ができるのではないかと考えた。また、子どもの思いや意識の流れを大切にすることで、確かな道德的実践力を育むことができるのではないかと考えた。総合主題名「あたたかい心で」は、道德の時間を核として、学校裁量の時間でのボランティア体験活動、あるいはボランティア体験活動の前後に設けた学級活動の時間との関連を図りながら、子どもの思いや意識の流れを大切にした道德学習を展開することにより、思いやりの心を一層育むことができるのではないかと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

子どものよさを生かし、子どもの思いや意識の流れを大切にした道德の時間と体験活動との関連を図った総合単元的な道德学習を展開することにより、思いやりの心を育む道德学習の在り方を研究する。

3 研究の仮説

総合主題名「あたたかい心で」において、子どものよさを生かし、子どもの思いや意識の流れを大切にした道德の時間と体験活動との関連を図った道德学習を展開すれば、思いやりの心を一層育むことができるであろう。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え

① 「思いやり」について

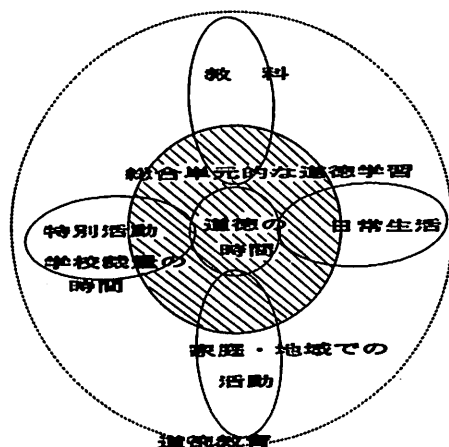
「思いやり」とは、他者に対してその状況や置かれている立場、その時の心情などを推し量って理解し、共感するときに生じるものであり、自己の微力ながらも何らかの役に立ちたいという利害打算を越えた道徳的心情及び行動が他者に対して取られていくことである。人と人との「思いやり」の心を持ち、相手の身になって考え、だれに対しても温かく接することは、よりよい人間関係をつくるため、また明るく潤いのある社会生活を営む上で、極めて大切なことである。

「思いやり」の価値は、道徳的価値の中でも最も基本的な価値であり、関連する価値も多い。本研究において「思いやり」の心を学習するにあたっては、「親切」、「信頼・友情」、「公正・公平」といった価値と関連させながら、「社会奉仕」という価値にまで広めることで、より確かな「思いやり」の心が育つものと考えた。さらに、体験活動の場での実践と関連づけることにより、価値の主體的な自覚が図られるものと考えた。

② 総合単元的な道徳学習

「総合単元的な道徳学習」とは、図1のように各教科や特別活動などの各教育活動の特性を生かしながら、共通した道徳的価値に関連する体験活動について、道徳の時間を核として、総合的なまとまりをもたせた学習であるにとらえた。

指導書で、「道徳教育は、学校教育全体で行うことを基本とする。」と述べられているが、「総合単元的な道徳学習」を展開することで、子どもを主体とした学習が確立されるとともに、各教育活動における道徳教育が一層推進され、さらに道徳的実践力の育成が図られるものと考えた。図1 総合単元的な道徳学習



③ 道徳の時間と体験活動との関連

文部省の押谷由夫教科調査官は、「様々な体験活動における具体的な実践を通して、内面的な力の耕しを行い、そのことを前提としながら内面の指導をより計画的、発展的に行う必要がある。それが道徳の時間となる。そのことによって、道徳的実践力の指導が道徳的实践につながる。」と述べている。つまり、総合単元的な道徳学習を構想していく上で、核となる道徳の時間と体験活動との関連をどう図っていくかが、道徳的実践力を高める上で大切になってくるものと考えられる。

各教科・特別活動などにおいては、それぞれのねらいがある。それを大切にしながら、子どもが道徳的価値に対してどのような意識を抱くか想定し、単元を構想していく必要がある。また、体験活動の中では、一人一人の子どものよさを生かせるような場を工夫するなどして、子どもが十分活動できるように支援していくことが大切になってくる。さらに、道徳の時間では、体験したことを振り返り、自分を深く見つめさせることで、道徳的価値が強く意識付けられ、道徳的実践への意欲が高められていくと考えられる。

④ 子どもの「意識の流れ」

ここで述べる子どもの「意識」とは、道徳的価値に対する「意識」である。子どもは、総合単元的な道徳学習の中で各教科などの取り組みや教師の投げかけなどを契機に、今まで自分がもっていた価値観に「気づき」、友達の多様な価値観、あるいは道徳の時間で使用された資料内容から、矛盾・葛藤を感じながら、より高められた価値観を感得していくものとする。その価値観の高まりを意識の「深まり」ととらえ、また一つの道徳的価値観から派生して、関連する道徳的価値にまで子どもの意識が及ぶことを意識の「広がり」ととらえた。この「気づき」、「深まり」、「広がり」といった螺旋的な「意識の流れ」を大切にしながら学習を進めていくことが、自ら考えることを大切にしたい道徳学習につながるものと考えられる。

(2) 主題に迫るために

① 思いやりに関する子どもの実態

図2に見られるアンケートの結果や子どもたちの様子から仲間意識の発達に伴い、集団での活動の場面が増え、友達に対して親切にしている姿がよく見られる。しかし、そこでは親切にする対象が、自分の仲の良い友達であったり、身近な存在の人に偏ったりする傾向がある。また、知らない人が、困っている時にも、親切にしてあげたい気持ちはあるのだけれど、恥ずかしさが先に立ってなかなか声をかけられないなどの子もみられる。

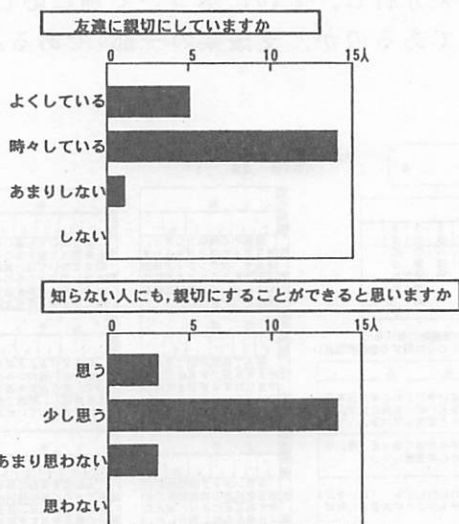


図2 思いやりに関する子どもの実態
(平10.10.26実施 金砂町立金砂小学校第5学年20人)

② 子どものよさを生かし、子どもの思いや意識の流れを大切にすること

ア 体験活動の充実

体験活動を道徳の時間でより効果的に生かすために、体験活動と道徳的価値の関連を明確にした。そして、各活動のめざす子どもの姿を明かにし、それに向けた指導の手だてを工夫することにより、体験活動の充実を図るようにした。表1に見られるように、体験活動を3つの段階「気付く」、「活動する、体験する」、「振り返る」に分け、それぞれのねらい、支援の手だてを工夫した。

表1 体験活動における支援の手だて

ねらい	支援の手だて
○ 活動のねらいや内容を理解し、興味・関心を高める。	・活動にかかわるVTRや写真を見ることにより、活動の具体的な内容を予想できるようにする。 ・活動に必要な用具や役割を子ども達が考え準備するように助言する。 ・活動のめあてを話し合い、カード等を書くことにより活動のねらいを自覚させたい。
○ よさを生かし、活動意欲を高める	・活動中、意欲的に活動している子どもを賞賛したり、励ましたりする。 ・活動中の子どものつぶやきや新たな気づきを取り上げ、共感的にうけとめる。 ・活動の目的や意欲の薄れていると思われる子どもには、助言をしていく。
○ 活動を振り返る	・活動を通して考えたことや思ったことをカード等にまとめる。 ・教室環境の一つとして、道徳コーナーの充実を図ることにより、体験を振り返りやすくする。

イ 体験活動で表れたよさを道徳の時間の指導過程に生かす工夫

総合単元的な道徳学習の中で、事前の体験活動で表れた子どものよさを道徳の時間の指導過程に生かすことにより、子どもたちの道徳性の深まりを図ることができると考えた。また、自分はもちろん友達によさや可能性にも気付くことができると考えた。

具体的に道徳の時間の指導過程においては、導入や終末において、体験活動を写真やVTR、子どもの作文を活用するなどして想起させるようにした。

ウ 個に応じた支援案の作成と活用

表2のような視点で、子どもたちの学習後の感想から「思いやり」に関する意識の変容を分析し、それに基づいて個に応じた支援案を作成し活用することにした。図3に示してあるのが、支援案の一部である。

表2 「思いやり」に関する意識の変容

段階	視 点
Ⅳ	思いやりの心を自然や動植物あるいは社会にまで広げようとしている
Ⅲ	相手の立場に立った思いやりの心を意識している
Ⅱ	だれに対しても、思いやりの心を持つことの大切さに気付く
Ⅰ	身近にいる友達などに思いやりの心を持って接することの大切さに気付く

平成10年11月9日 3校時 (第5次 道徳)

それぞれの活動時における「思いやり」の心に関する意識の変容

段階	視 点
Ⅳ	「思いやり」の心を自然や動植物あるいは、社会にまで広げようとしている。
Ⅲ	相手の立場に立った「思いやり」の心を意識している。
Ⅱ	だれに対しても、「思いやり」の心をもつことの大切さに気付く。
Ⅰ	身近にいる友達などに「思いやり」の心をもって接することの大切さに気付く。

図3は、上記の表と並列に、児童の学習記録や感想文の断片が示されています。例えば、H君の記録には「友達との協力に助け、自分もよさを発揮される。導入で、ボランティア活動を通して見られたよさを紹介するなどで、学習意欲を喚起して欲しい。」とあり、L子やK子の感想には「思いやりの心をもつことの大切さについて、体験活動を通して学んだものと思える。書く作業を通して、じっくりと考えたい。」と述べられています。

図3 個に応じた支援案の一部

エ 道徳ノート及び道徳コーナー

道徳ノートや教室環境における道徳コーナーを使って、子どもたちに総合主題名「あたたかい心で」を通して、道徳学習を進めていくことの意識づけを図った。また、第1次の学級活動の時間において、「あたたかい心で」の学習のオリエンテーションを行い、道徳の時間だけでなく、学級活動や学校裁量の時間においても心の勉強を進めていくことを確認した。

(3) 実践研究

- | | | | |
|---|-------|--|------------|
| 1 | 総合主題名 | あたたかい心で | (2-2, 4-4) |
| 2 | ねらい | だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする態度や思いやりの心を社会にまで広げ、自ら公共のために役立とうとする態度を養う。 | |

① 総合単元的に取り扱った意図

総合単元的な道徳学習は、学期に一度道徳教育の全体計画に掲げられている重点目標について取り扱うことにした。そこで、本年度の道徳教育重点目標の一つにもなっている「思いやりの心をもち、豊かな心をもった子」をうけ、「2-2」「4-4」を重点内容項目とし、2学期における総合単元的な道徳学習「総合主題名 あたたかい心で」を構想した。

思いやりに焦点をあてた総合単元的な道徳学習の構想にあたっては、道徳の時間を核とし、「思いやり」という道徳的価値の涵養に資する体験活動として、学校裁量の時間（かなさっ子デー）に行われるボランティア体験活動を取り上げた。子どもたちのボランティア体験活動を通して得られたさまざまな思いや気付きをもとに、「相手を思いやる本当の親切とはどういうことか。」道徳の時間に話し合いをすることにより、道徳的価値についての主体的な自覚を図っていきいたいと考えた。

② 単元構想

	第1次 学級活動 「ボランティア活動 について①」	第2次 道徳 親切な心 2-② 「くずれ落ちた 段ボール箱」	第3次 学級活動 「ボランティア活動 について②」	第4次 かなさっ子 デー ボランティア活動 「幼稚園訪問」	第5次 道徳 相手の身になって 2-② 「重いすの少女」	第6次 道徳 みんなのために 4-④ 「五十二段のさくら」
総合主題の ねらい	○ 「あたたかい心」 についてのオリエン テーション。 ○ どんなボランティ ア活動ができるか話し 合う。	○ 周りの人に対して 思いやりの心をもち 温かく接しようとする 心情を深める。	○ 幼稚園訪問につい ての具体的な計画に ついて話し合い、活 動のめあてを立てる	○ 計画にしたがって 幼稚園訪問をする中 で、幼稚園生との触 れあいを通し、やさ しい心で、活動する	○ 相手の気持ちや 立場を考へて、温 かく接しようとする 心情を深める。	○ 進んで公共のため に役に立とうとする 心情を育てる。
主な活動	・ 「やさしさにあり がとう」のVTRを 試観する。 ・ 幼稚園訪問で、自 分たちは、どんな活 動ができるだろうが 話し合う。 ・ 幼稚園生の立場に 立って、考へてみる	・ 資料「くずれ落ち た段ボール箱」を読 んで疑問に思ったこ とを話し合う。 ・ 主人公の行為につ いて話し合う。 ・ 自分がやったこと でないのに、どうし てやってあげることが できたのだろう。 ・ 周りの人に親切に した経験を話し合う	・ 幼稚園訪問を進め るための役割分担を 決める。 ・ グループごとに取 り組みについて話し 合う。 ・ 幼稚園訪問の活 動のめあてを決める。	・ 活動のめあてを確 認し、グループごと に幼稚園生との触れ 合い活動をする。 ・ グループごとに園 内の清掃活動をする	・ 幼稚園訪問での 体験を振り返る。 ・ 資料「重いすの 少女」を読んで、 疑問に思ったこと を話し合う。 ・ 本当の思いやり って何だろう。 ・ 自分の今までの 生活を振り返る。	・ みんなのためにな ることってどんなこ とがあるか話し合う ・ 資料「五十二段の さくら」を読み取 り、疑問の気持ち を中心に話し 合う。 ・ 自分の今までの生 活をふりかえる。 ・ 教師の話を聞く
その他の 教育活動	オアシス運動 いいことみつけた					
子どもの 思い	・自分たちができるボ ランティア活動って なんだろう。	・知らない人に親切 にするって、恥ず かしいな。 ・私にも、できるか な。	・こんなことを、し たらどうかな。 ・きっと喜んでくれ るよ。 ・早くやってあげた いな。	・〇〇さんが喜んで くれたよ。 ・やって良かったな。 ・またやってあげ たいな。 ・ぼくは、ちょっと・	・だれにでも親切に してあげることだ けが、思いやりで なさそうだ。 ・本当の思いやり ってなんだろう。	・堅固ってすごいな。 ・私も、少しでもで きるように、がんば ってみようかな。
意識の流れ	価値の気付き	価値の内面化	めあてを決める	体験を通して感じる	価値観の深まり	価値観の広まり

③ 授業記録

価値の気付き	<p>第1次 学級活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あたたかい心で」についての学習のオリエンテーション。 ・どんなボランティア活動ができるか話し合う。 														
	<p>アンケート結果</p> <p>◎ どんなボランティア活動ができるだろうか。(複数回答)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>・ごみ拾い</td><td>20人</td></tr> <tr><td>・通学路のそうじ</td><td>17人</td></tr> <tr><td>・地区の公民館のそうじ</td><td>10人</td></tr> <tr><td>・一人暮らしのお年寄り訪問</td><td>9人</td></tr> <tr><td>・老人ホームの訪問</td><td>15人</td></tr> <tr><td>・幼稚園訪問</td><td>13人</td></tr> <tr><td>・体の不自由な人の体験</td><td>5人</td></tr> </table>	・ごみ拾い	20人	・通学路のそうじ	17人	・地区の公民館のそうじ	10人	・一人暮らしのお年寄り訪問	9人	・老人ホームの訪問	15人	・幼稚園訪問	13人	・体の不自由な人の体験	5人
・ごみ拾い	20人														
・通学路のそうじ	17人														
・地区の公民館のそうじ	10人														
・一人暮らしのお年寄り訪問	9人														
・老人ホームの訪問	15人														
・幼稚園訪問	13人														
・体の不自由な人の体験	5人														
価値の内面化	<p>子どもたちの日常の様子を見ていると仲間意識の発達に伴い集団での活動場面が増え、友達に対して親切にしている姿がよく見られる。しかし、そこでは親切にする対象が、自分の仲の良い友達であると偏ってしまう傾向がみられる。また、知らない人に対しては、親切にしたい気持ちはあるのだけれど恥ずかしさが先に立ちなかなか声をかけられないなどの様子もみられる。幼稚園訪問を前に相手が難であろうと、どんな状況にあるか気付き、相手の立場に立って、何をしてくれることが大切か思いやる心を育てていきたいと考え、道徳の時間を設定した。しかし、ここでは、ボランティア体験のための道徳の授業とならないように、「思いやり」という価値をつかみ、今までの自分を内省することのできる時間にしたいと考えた。</p>														
	<p>第2次 道徳</p> <p>1 主題名 親切な心 2-(2)</p> <p>2 資料名 くずれ落ちた段ボール箱 (出典 東京書籍)</p> <p>主人公である「わたし」が友達とショッピングセンターに行った時、見知らぬおばあさんが孫の崩した段ボール箱を積み直そうとしているところを手伝い、店員から自分たちが崩したと誤解をされながらもやり終え、おばあさんから感謝されるという内容である。</p> <p>主人公の経験を共感的に取り扱いながら、今までの自分の「思いやりの心」を振り返らせていきたい。そして、見知らぬ人でも困っているときには、親切にしてあげることが大切であることに気付かせていきたい。</p> <p>3 ねらい</p> <p>周りの人に対して思いやりの心を持ち、温かく接しようとする心情を深める。</p>														
	<p>T1：困っているおばあさんを見たとき、わたしはどんな気持ちになっただろうか。</p> <p>C1：困っているみたいだから、手伝ってあげようかな。</p> <p>C2：早く買い物をしたいし、手伝おうかな、どうしようかな。</p> <p>C3：おばあさんもかわいそうだろう。片付けを手伝ってあげよう。</p> <p>T1-① (補助発問)</p> <p>このおばあさんは、知り合いなのですか。</p> <p>C4：手伝ってあげたいけれど、片付けるのは、恥ずかしい。</p> <p>C5：片付けてもいいけど、ちょっと周りから見られているしどうしよう。</p> <p>C6：手伝ってみたいけど、みんな見てるし知らないおばあさんだから、どうしようか迷ってしまう。</p> <p>T2：片付けを始めましたが、お店の人に注意をされてしまいました。お店の人に注意された時の気持ちはどうだったでしょう。</p> <p>C7：むかつく。</p> <p>C8：せっかくいいことをしたのに、どうして注意するのだろう。</p> <p>C9：わたしたちがやったわけでないのに、なぜしかられなければならないの。</p> <p>C10：こんなことになるんだったら、やらなければよかった。</p> <p>T2-① (補助発問)</p> <p>こんなこと言われたら、あなただったら、どうしますか。</p> <p>C11：言い返す・・けど片付けと思う。</p> <p>C3：自分で引き受けたことだから、片付けと思う。</p> <p>C11：やろうと思っていい心が、やめてしまっはこわれてしまう。</p> <p>C2：むかついていいやと思って、やめてしまっはいい心がなくなってしまう。がんばってやると、いい心が大きくなるような気がする。</p> <p>C3：せっかくいいことをしているのに、やめてしまっ中途半端になってしまう。</p>														

- T3:最後まで片付けながら, どんなことを考えていたでしょうか。
 C12:おばあさんどうしたかな。もどってくるかな。
 C4:おばあさんと約束したんだし, ここでやめては, 約束をやぶることになる。
 C3:おこられても人助けをしたんだから, 心がすっきりした。
 C5:でもおこられたんだし, 何もしていないのに・・・なんだかすっきりしない。
 C11:おこられても良い気分。なんだか分からないけれど, 良い気分。
 C2:おこられても心のすっきりした人は, 心が広いのだと思う。

T3:「わたし」に手紙を書いてみよう。

授業後の感想をみると, 「思いやりって, した人もされた人も良い気持ちになるんだね。」「困っている人がいたら手をかしてあげて, 自分も良い気持ちでいたい。」「今度からは, 恥ずかしがらず少しでも声をだせたらと思う。」「今まで見て見ぬふりをすることが多かったけど, 少しでも良い方向へ持っていきたい。」などねらいとする価値をつかみ, 今までの自分を内省していると思われる内容が多くみられた。また, 数名の子はC2, C3の発表内容に影響を受け, 「良いことをするといい心が一回り大きくなって, 気持ち良いということがわたしにもあると良いです。たくさん良いことをして。」「友達の発表を聞いて, 幼稚園の先生が言っていた良いことをすると良い心が増えると言った言葉を思い出しました。」といった感想を書いている子が見られた。

第3次 学級活動

・幼稚園訪問についての具体的な計画を立て, グループ毎の取り組みについて話し合う。また, 活動のめあてについて話し合う。

アンケート結果

◎ 幼稚園訪問では, 自分たちにどんな活動ができるだろうか? (複数回答)

- | | |
|-------------|-----|
| ・いっしょに遊ぶ | 4人 |
| ・本を読んでもあげる | 2人 |
| ・人形劇を見せてあげる | 4人 |
| ・工作をいっしょに作る | 6人 |
| ・サッカー教室を開く | 6人 |
| ・幼稚園の掃除をする | 15人 |

弟や妹が幼稚園にいる4名は, それぞれに家庭で「どんなことをやってみたいか。」「今幼稚園生がやっていること」を自主的に聞いてくるなど幼稚園訪問に対する意気込みが感じられた。自分達が楽しむより幼稚園生を楽しませなくてはならないことを話す。それぞれに自分の取り組み内容を確認し, グループを編成した。

(活動グループ)

- ・サッカー教室
- ・段ボール箱で家をつくろう
- ・工作教室
- ・人形劇
- ・スポーツ教室
- ・なかよく遊ぼう

グループを編成する時, 気になる子として A男・B男・C男・D男の4名がいた。それぞれに, 事前の意識調査では低い価値の回答しか見られず, また前時の道徳の授業においても消極的な態度で授業後の感想なども資料内容に対する表面的なものにとどまっていた。A男とB男に関しては, 「サッカー教室を開きたい。」「C男とD男に関しては, 「工作教室を開きたい。」と言ってきた。本人の意志を大切に, その中で少しでも幼稚園生とのかかわりを図っていければと考えた。特に, サッカー教室を開くグループには, C3(意識調査でも高い価値の回答が得られ, 生活経験においても「思いやり」に関する実体験が豊富である)がおり, 良い意味での影響力を期待した。工作教室はC男・D男の二人だけで心配であったため, 教師のかかわりを多く持っていくことを考えた。

幼稚園訪問の学年テーマ

あたたかい心を幼稚園生にもわけてあげよう

話し合いで, 上記のような学年のテーマが決定した。このテーマを受けてそれぞれ個人の目標を立て, 幼稚園訪問まで各グループ毎に準備や練習に, 積極的に取り組む姿がみられた。

第4次 かなさっ子デー(学校裁量の時間)

< ボランティア体験活動(幼稚園訪問) >

- ・計画にしたがって, グループ毎に幼稚園生との触れ合い活動をする。

- | | | |
|---|-------------|-----------------------|
| 1 | 9:00~ | 幼稚園を訪問し, 幼稚園の先生の話聞く |
| 2 | 9:10~9:50 | 各グループ毎に幼稚園生との触れ合い活動 |
| | | ・人形劇グループ ・サッカーグループ |
| | | ・スポーツグループ ・工作グループ |
| | | ・段ボール箱で家を作ろうグループ |
| | | ・遊ぼうグループ |
| 3 | 10:00~10:30 | 園庭の清掃活動 |
| 4 | 10:35 | 幼稚園の先生にあいさつ |



め
あ
て
を
決
め
る
休
験
を
通
し
て
感
じ
る



最初のうちは、お互いに遠慮しているようなところが見られたが、次第になごやかな雰囲気のもと幼稚園生との触れ合いがもてるようになった。事前に心配をしていたA男に関しては、友達と共に幼稚園生に優しく尋ねながらサッカーを教えていた。また、C男・D男に関しては、こちらの心配をよそに自分達のグループの幼稚園生に一生懸命ゴムで動くおもちゃ作りを教えていた。

幼稚園訪問を終えた後、それぞれに感想をまとめた。ほとんどの子が「幼稚園生が喜んでくれてうれしかった。」「また幼稚園訪問をしたい。」などの感想をまとめている中人形劇グループは、「幼稚園生は、楽しかったのだろうか・・・。」と疑問をもったような内容であった。またC男に関しても、「教えてあげるだけでなく、自分もやりたくなった。今度は、工作グループがいいかな。」など、自己中心的な感想のみにとどまっていた。

ボランティア体験活動(幼稚園訪問)を通して得られたさまざまな思いや気付きをもとに「相手を使いやる本当の親切とは、どういうものか。」を考え、道徳的心情を深めていく時間として、道徳の時間を設定した。

第5次 道徳

1 主題名 相手の身になって 2-(2)

2 資料名 車いすの少女 (出典 大阪書籍)

主人公「わたし」と友達のと子は、車椅子の道子がくぼみに落ちて困っているのを見て、手助けしようとした。しかし、「手伝わないで・・・。」と言う道子の母の言葉に戸惑ってしまう。道子の母は、道子が人に頼らないで、学校へ行けるようになって欲しいということを願っていることを知り、本当の親切とは何か考える内容である。誰に対しても思いやりの心を持つことは大切なことであるが、時にはそれがおせっかいや迷惑な親切になってしまうことがあることに気付かせていきたい。

3 ねらい

相手の立場に立って考え、誰に対しても温かく接しようとする心情を深める。

価値観

幼稚園訪問でのボランティア体験活動を思い出し、話し合う。

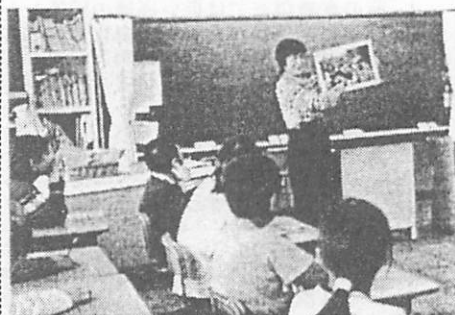
- C1: あ・・ぼくが写っている。
- C2: 幼稚園生に折り紙を教えているところだ。
- C3: おままとしているところだ。
- C4: 幼稚園生の〇〇さんだ。にここにこしているよ。

T1: 幼稚園訪問をしての感想の中に気になる内容のものがありました。紹介したいと思います。

A子

幼稚園生は、わたしたちの人形劇を「楽しんでくれたかな。おもしろくなかったのかな。」と心配になりました。あまりにここにこしていなかったからです。私の温かい心は10%くらいしかあげられなかったように思います。一生懸命やってあげたのにどうしてかな。

前時のボランティア体験活動の写真等を見ることにより、さまざまなつづきがあった。



A子さんの「どうしてかな・・・。」という思いを、資料を通してみんなで考えていきたいと思います。

T2: くぼみに落ち込んで困っている道子さんを見たとき、私はどんな気持ちになっただろうか。

- C1: かわいそう。
- C2: くぼみにはまって大変だ、助けてあげなきゃ。
- C3: 大変だ。
- C4: 手伝ってあげよう。
- T3: 道子のお母さんに「手伝わないで・・・。」と言われた時、私はどんな気持ちになっただろうか。
- C5: 道子さんが困っているのにいじわるだ。
- C6: どうしてそんなことを言うの。
- C4: せっかく手伝ってあげようと思ったのに、ひどい。
- C7: お母さんに腹がたつ。
- C3: 道子さんの訓練のためなのかな。

T4: しばらくして、くぼみから抜け出た道子さん。それをじっと見ていたお母さんの目に涙を見た時、わたしは、どんなことを考えたでしょうか。

C8: 道子さんのお母さん、本当は手伝ってあげたかったのに、道子さんのことを考えて言ったんだ。

の深まり

- C9: あのと「手伝わないで」と言ったのは、いじわるではなくて、自分の力で抜け出せるようにしたかったんだ。
 C10: 道子さんのお母さんは、道子さんが自分の力で、克服するのを見守っていたんだ。
 C3: 道子さんがみぞから出たのに感動したんだ。
 C4: わたしたちは、いいことをしたのかしら……。わたしは、すごい失礼なことを考えていた。
 C11: 悪いこと言っちゃったかな。。。。。

T4-① (補助発問)

- C4・C11から、わたしたちはいいことをしたのかな。悪いこと言っちゃったかな。。。」と言う意見がでしたが、「手伝おう」としたことは、悪いことなのかな。
 C8: 手伝うってことも、時と場合によって良い時と悪い時がある。この話のように、自分の力で克服するときには、手伝わない方がいい。
 C3: 自分でやらなければならないときに、手をかしてあげてはだめになってしまう。
 C4: この場面では、練習して道子さんは学校へ行きたいと思っているのだから、手伝わない方がいい。何も言われなければ、手伝っていたと思う。
 C12: 手伝うことは、悪いことではない。でもこの場合は、違う。相手のことを考えてあげないとだめなのかな。

T5: 道子さんに手紙を書こう。

T6: 教師説話

B子

「積み木やる。」って聞いたら、幼稚園生は、「うん。」と小さな声で言っていたので、どうしようか悩みました。わたしたちが積み木を出し始めたら、幼稚園生が、おままごの所へいっので、「おままごやる。」って聞いたら「やるー。」って、元気な声で答えてくれました。はじめは、静かだったけれどだんだん楽しそうになってきました。よかったです。

教師説話として、ボランティア体験活動を行っている感想の中から、幼稚園生の気持ちを大切にしながら、楽しく活動できた子の感想を取り上げた。
 特に、範読する場合には、幼稚園生の「うん。」と小さな声で、「やるー。」って元気な声で言ったところを感情を込めて読み、できるだけ臨場感を出すようにした。

第6次 道徳

- 1 主題名 みんなのために
 2 資料名 五十二段のさくら (出典 文部省 小学校道徳の指導資料とその利用 1)
 江戸時代の古都奈良の話である。川路聖謨という役人の一人が古都奈良の町の荒廃振りに驚いた。この荒廃ぶりを悩み美しい町にしたいと対策に明け暮れていた時、柳を植える一人の少女の姿が目にとまった。聖謨らは、自ら清掃、植樹の労働をした。それに刺激され、町の人達が自分達の町を自分達の手で美しくしようと動き出し、見違えるような町づくりを果たしたという史話である。思いやりを社会にまで発揮し、公共のために尽くそうとする温かい心情を大切に育てていきたいと考える。
 3 ねらい
 進んで公共のために役立とうとする心情を育てる。

価値

観の広

- T3: 町の人から「わたしたちも手伝わせていただきますし。」と言われた時、聖謨は、どんな気持ちになったでしょうか。
 C1: なんて今までやらなかったのに、やる気になったのだろう。
 C2: どうぞ手伝ってください。
 C3: ぼくの気持ちをわかってくれて、うれしい。
 C4: うれしい。ぼくの影響をうけてくれて。
 C5: やっと町の人達にもぼくの気持ちが伝わったのだ。
 C6: 町の人達にも、自然を大切に、町をきれいにしたいという気持ちが分かってくれたのだ。

- T4: 聖謨は、満開の桜の下で町の人達にどんな別れのあいさつをしたでしょうか。
 C4: 聖謨は、町の人ばかりでなく、自分がたんせいこめて植えた桜の木にも別れのあいさつをしたと思う。

T5: 聖謨に手紙を書こう。

授業後の感想

C子

今日の授業をして、思いやりの心が人だけでなく、動物や植物そして社会にまで広がることがわかりました。そして、その思いやりという温かい心は、周りの人の心も動かすことがわかりました。ボランティア活動として、これからいろんなことをやってみたいです。



(4) 授業の分析と考察

① 「思いやり」の心に関する意識の変容

子ども一人一人の「思いやり」の心に関する意識の変容については、学習後の道徳ノートに記述された感想を通してとらえた。図4に意識の変容をグラフに表してみるとはつきりと指導前と指導後において違いがみられる。

第4次のボランティア活動（幼稚園訪問）においては、最初幼稚園生に接するのに戸惑いがみられたが、次第になごやかな雰囲気の中で、幼稚園生に対する思いやりの行為がたくさん見られるようになった。感想からも幼稚園生に対する優しい思いやりの心がうかがえた。第5・6次の道徳の時間においては、資料内容や友達の意見などが要因となり、意識の変容が多く見られた。

個々の変容を見ると、特に事前の意識調査の方で低い価値の回答をしていた児童1・2・6については、体験活動を通して、自分の考えや行動に自信が持てるようになり、次の道徳の時間においても積極的な参加が見られた。また、道徳の時間での話し合い活動から、積極的に自らの考えを修正している児童8・11も見られた。

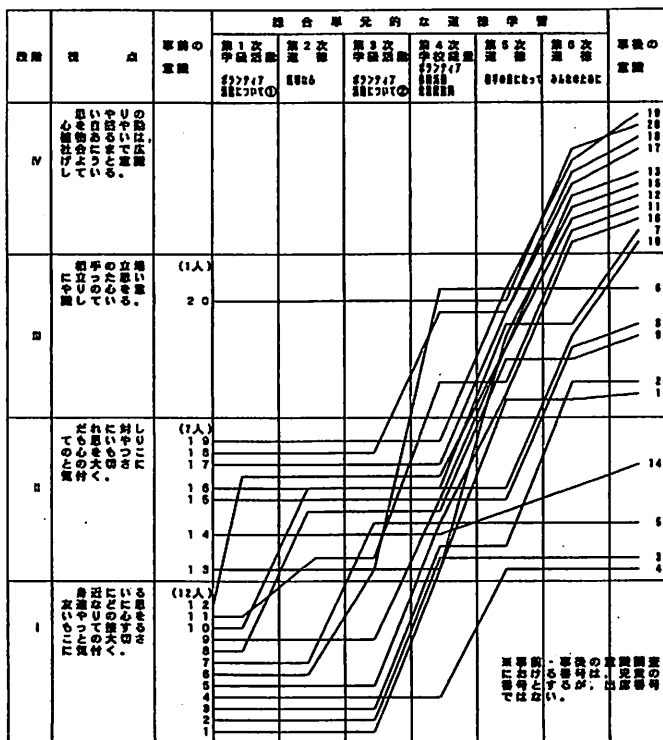


図4 「思いやり」の心に関する意識の変容
(研修センター研究報告書第19号 授業分析表参照)

② 事前・事後の意識調査からみる変容

授業後の意識調査で、明らかに意識の高まりが見られた。特に「身近な人でなくとも、困っている時には、親切にすることができるか」との質問事項に関しては、「[あたたかい心で]」の学習をして、自分にもやれそうな気がした、「はずかしいけど、少しずつがんばってみたいな」などといった道徳的实践意欲が感じられる内容の回答をしていた。

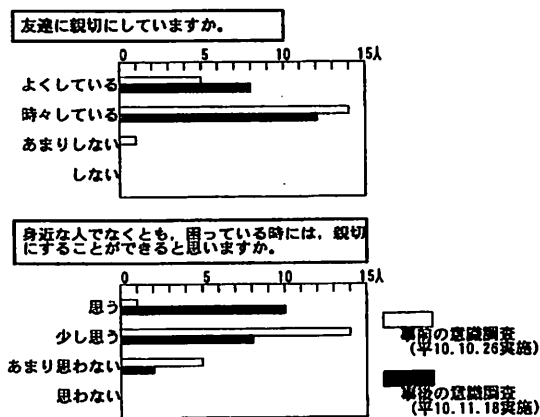


図5 思いやりに関する意識の変容
(金砂町立金砂小学校 第5学年20人)

③ 総合単元的な道徳学習における子どものふりかえりカード（自己評価）からみる意識の変容

6次からなる総合主題名「あたたかい心で」

を学習した後、子どもたちは資料1のふりかえりカードを使って、授業や体験活動における意識の変容を自己評価した。その結果を図6にまとめた。

図6から分かることとして、第2、5、6次の道徳の時間においては、多くの子が「それまでの自分の考えや行動の間違いに気付いた」あるいは、「自分の考えや行動で足りないと感じた」と答えている。これは、道徳的実践力を育てることを

目的とした道徳の時間が、十分機能していた結果といえるのではないかと推察する。

ボランティア体験活動において、自分に自信がもてたと答えている子は15人にもなり、その自信が事後の意識調査結果に見られ、「自分にもやれそうな気がした」、「少しずつがんばってみよう」といった道徳的実践意欲に結び付いたのではないだろうか。

④ 子どもの感想

「あたたかい心で」の学習を終えた後書いた感想（資料2）からも、子どもたちの道徳的実践力の高まりがうかがえる。

資料1 ふりかえりカード

「あたたかい心で」の学習をふりかえてみましょう。

それぞれの学習において、あなたはどんな気持ちをもちましたか。口のなかから合うものをいれてください。

<input type="checkbox"/>	ボランティア体験活動の計画の話し合い。
<input type="checkbox"/>	道徳の時間（くずれ落ちた段ボール箱）
<input type="checkbox"/>	ボランティア体験活動の準備
<input type="checkbox"/>	ボランティア体験活動（幼稚園訪問）
<input type="checkbox"/>	道徳の時間（車いすの少女）
<input type="checkbox"/>	道徳の時間（五十二段のさくら）

ア 今までの考えや行動の間違いに気が付いた。
 イ 今までの考えや行動に足りないものがあることに気が付いた。
 ウ 今までの考えや行動に自信がもてた。
 エ 今までとあまり変わらない。

類型 授業	自分の考えや行動の間違いに気付いた。	自分の考えや行動で足りないと感じた。	自分の考えや行動に自信がもてた。	今までの自分の行動に変わらない。
第1次 学級活動	0人	2人	2人	15人
第2次 道徳	2人	15人	3人	0人
第3次 学級活動	0人	2人	5人	13人
第4次 ボランティア体験活動	0人	5人	15人	0人
第5次 道徳	5人	10人	1人	0人
第6次 道徳	1人	15人	3人	0人

図6 子どもの自己評価からみる意識の変容

（平.10.11.18実施 金杉町立金杉小学校第5学年20人）

A子（道徳の時間の資料や話し合いによって自信がもてた）

今までいろいろな資料を読んできて
 なんだか自分に自信がもてたような気が
 します。
 たれかが困っているとき話をかけてあげて
 知らない人でも知っている人でも助け
 あげたいです。

A男（道徳の資料内容から自分なりに学んだ）

あたたかい心をもっていろいろなことをするタイ
 ミングが大事だと思いました。困っている人な
 どがいたら助けてあげたいし、なにか困ってい
 る人がいたら声をかけて手伝ってあげたいです。

B子（体験活動で自信がもて変容が見られた）

私はこの6時間もとてもすごく自分に自信がもてました。
 くによう園訪問の時にみんながよう園生に「あ
 たたかい心、せわけてあげられたと思いました。よう園訪
 問の時ほんとでも楽しかったです。その日はみんながみんな
 あたたかい心をわけてあげられた時間だと思います。
 これからもたれにでも「あたたかい心」をわけてあげたい
 と思います。

5 研究のまとめ

「思いやり」の心を育む指導の在り方を、総合単元的な道徳学習を通して研究を進めてきた結果、次のことが明らかになった。

(1) 総合単元的な道徳学習の全体を通しての取り組み

子どもたちは、「幼稚園訪問をしよう」という活動が決まると、活動の計画、準備、訪問といった一連の活動に意欲的に取り組むことができた。また、道徳の時間を核として、他の教育活動と関連させた総合単元的な道徳学習を意図的に組むことにより、体験活動と道徳の時間との関連を一層図れるようになった。

さらに、子どもたちにとって、今まで道徳の時間は1時間で終わってしまいがちであったが、今回の総合単元的な道徳学習を展開する中では、常に活動テーマでもある「あたたかい心で」を意識しながら、「相手の立場に立った思いやり」について、自らの問題として考えることができた。

(2) 子どものよさを生かし、子どもの思いや意識の流れを大切にすること

毎時間ごとに、学習後の感想を書くことにより、子どもたちは、自分の思いや道徳的価値に対する意識を自分の中で整理することができた。また、教師も、その感想を分析することにより、子どものよさや「思いやり」の心に関する意識の変容をとらえ、個に応じた支援案を作成し、実際の授業の中での指導に生かすことができた。

(3) 道徳的実践力の育成

「思いやり」の心は、人間関係を核としながら自然や動植物、社会や集団との関係においても発揮されるものと考え、道徳学習を進めてきた。その中で子どもたちは、じっくりと価値内容について考えることができ、道徳的実践力の高まりがみられた。また、「思いやり」の心に関する意識の変容の要因をみたとき、道徳の時間での話し合い活動や取り扱った資料内容によって、あるいは幼稚園訪問という体験活動が契機となった子などさまざまな要因が挙げられ、総合単元的な道徳学習の実施が有効であったと考えられる。

6 今後の課題

- (1) 道徳の時間と体験活動との関連を図った総合単元的な道徳学習の中で、単元全体を通しての支援の在り方についてさらに研究をする。
- (2) 総合単元的な道徳学習を組み入れた、年間指導計画の見直しを図る。
- (3) 道徳教育の充実を図るために、道徳だより等の活用を図ることにより、地域や家庭との連携の在り方を研究する。

<主な参考文献>

- 永野重史（編）『道徳性の発達と教育』1991，新曜社
押谷由夫『総合単元的道徳学習論の提唱』1996，ぶんけい
押谷由夫『道徳教育新時代』1994，国土社
金井 肇『道徳授業の基本的構造理論』1998，明治図書